

広報
273 号

東京都製紙原料協同組合

発行所
東京都製紙原料協同組合
台東区台東 3-16-1
TEL (3831) 7980
発行人 近藤 勝
編集広報委員会



美咲町 四季彩の丘付近のひまわり畑です。

城南支部 梶野泰一

〈 主 な 内 容 〉

時の視点	支部便り			
ドイツの国際古紙会議を見て思うこと	「納涼会」文京支部	理 事	人見一男	11
全原連 需給委員長 大久保信隆	〃 荒川支部	支部長	久保田貞行	11
2~3	〃 城南支部		坂田秀一郎	12
国際古紙会議に参加して	〃 城北支部	支部長	黒田義孝	12~13
副理事長 清水弘允	〃 江墨支部	支部長	松井隆宏	13
3	組合員の広場			
青年部部長挨拶 青年部部長 坂内大介	永年勤続従業員表彰式に参加して			
4	(株)共益・商会 原田周子			13
第24回 古紙関係協議会	4~7	ゴルフの思い出 城南支部	坂田秀一郎	13~14
グリーンプリンティング認定について	7	支部スケジュール		14
東京返本加工協同組合 第45回 通常総会開催	8~9	お知らせ		
直納部委員会及び納涼会	9	「10月会議・催事予定」	「古紙価格」	15
清風会研修会及び納涼会		会議概要〔7月〕		15~19
広報部副部長 脇 克美	10	編集後記	広報部部長 清水弘允	19
組合主催ゴルフコンペ開催 青年部 高橋宏明	10	広 告		20
青年部納涼会 幹事長 廣田圭吾	11			

時の視点

ドイツの国際古紙会議を見て 思うこと



全原連 需給委員長

大久保 信隆

炎暑を迎える頃になると太平洋戦争の生々しい悲惨な敗戦の姿が語られ映し出され、平和な日本国が何時までも継続することを国民全員が願っております。だが占領時代からの継続事項である多くの事を解決しないと対等な信頼関係は得られません。又、この戦争が始まるまでの日本国がどう扱かれたか軍縮や資源獲得競争そして経済封鎖等、歴史的な認識を持った人が極めて少ないと思われれます。

今年のお正月古紙再生促進センター石田理事長は古紙市況が二極化していると言われ、後で訂正されましたが、古紙資源の市場は世界共通だと思いますし、今後は地球の資源を上手く大事に使わなくては駄目だと思います。特に循環資源であるセカンダリーファイバーの古紙は不純物が見つからない事と入れないように選別をしっかりしなくてはなりません。エネルギーや紙においてもあらゆる資源は一人占めの考えを無くしバランス良く使用することです。これらの努力が世界の平和を保つことに成ると思います。

それには世界の現状を知らなくてはなりません。我々需給委員会では環境先進国ドイツで毎年古紙の専門家が集まって会議が開かれていること

を2008年10月オランダのソルテバ社へ訪問の際に若い経営者ハンスさんから聴きました。

委員会としてはリーマンショック後の欧州の古紙業界がどう変化しているか、ヨーロッパ経済の中心国が先進国の役割をどう行っているか、bvseのプログラムを見て13回目の国際古紙会議をどう運営しているか、ユーロ圏での環境対策の法律はどうなっていくのか、欧州では洋紙の今後の動向はどうなるのか、購買政策についてどうか、古紙輸出はどういう状況か、コンテナ運搬需要はどうか、全原連や古紙再生センターの会議との違いはどうか、bvse(ドイツ連邦再生資源登録組合)とはどういう組織なのか、会議に参加して勉強すると同時にドイツの古紙業者のヤードも見学してきました。

内容に関しては自画自賛出来る報告書が9月半ばに出ますので期待してお読み下さい。

今回ドイツへ行って私が見たり、聴いたりして感じたことは日本と大変に似ている事が解りました。政治は連立内閣、選挙では有権者が飛びつくような良いことを言うが選挙後何もやらない。産業は技術がよい自動車産業の発展、業業は凄い、機械、再生技術はみな日本も同じと思いました。

日本より優れているのは自動車道路が素晴らしいアウトバーンだ。運ぶ物量は大きくコストダウンとなり、古紙を運ぶ納品、集荷車やパッカー車も大型で狭い道路の日本では太刀打ちできない。必要な物はヨーロッパ中から買い、手の掛る物、使い難い物は外へ出すという徹底的な合理主義はなかなか真似が出来ないと思いましたが、これから努力しなければいけないと思いました。

これら人の行動の中、今の日本人が忘れかけている勤勉なところは日本が発展するため是非、復活しなければいけません。タイ等へ団体旅行に行く姿も似ており楽しいと思いますがこれはクェッションマークです。

やっぱりどんどん外へ出なければ駄目だと思いました。そして外国の方々にも日本を知って貰わなくてはいけないと感じました。そこで我々の古紙業界を見てもらい世界の人達と話し合う場を持ちたいと5年後に国際会議を行いたいとの発言になりました。

我々の先輩達が築いてくれた日本の製紙原料業界は1日で出来ない事を知って貰い、中国に呑みこまれないよう日本の古紙業界を正確にアピールしたいので5年後東京で行う国際会議開催を是非応援して下さい。

国際古紙会議に参加して

副理事長 **清水 弘允**

古紙の国際市場は以前からあった訳ですが、10年前までの日本にとってその市場は身近な存在とは言えませんでした。しかし中国が紙・板紙生産を伸ばし始めた過去数年、様相は大きく変わり日本も古紙の国際市場と向き合うようになりました。今では古紙の輸出国、輸入国を問わず、国際市場を語らずして自国の市場を語る事は出来なくなりました。そのような中、共に古紙を扱う世界の人々と交流を深める事は自然の趨勢であり、全原連が今回、国際古紙会議へ参加した事は、極めてタイムリーな事と思います。

今回の会議はドイツ西部のデュッセルドルフで開催されました。主催者はbvse（ドイツ連邦再生資源登録組合）と言う団体で以前は再生資源ごとに夫々別個に団体を作っていたのを一つの組織の中に全ての団体が加盟して、例えば古紙部会と言うように部会を形成して活動をしているそうです。今回の参加者は600名ほどですが、やはりドイツからの参加が80%と多く、その他は地理的に近いオランダ、オーストリア、スイス、フラ

ンス、英国などを中心に17カ国からの参加が報告されています。

会議の内容は当然、古紙業界が抱えている問題点について論じられた訳ですが、直接的な話題だけでなく、もう少し広い視野に立った、いわゆるアカデミックな内容であった事が印象的でした。以下講演のタイトルを列記しておきます。

講演①「グローバル化の中、金融危機は中産階級及び社会にどのような意味を持つのか」

講演②「製品としての古紙・・・必要条件と、そのもたらす結果」（資源活用について）

講演③「ドイツにおける古紙の処理責任・・・古紙リサイクルの進むべき方向」

講演④「上物古紙の減少と、その影響」

講演⑤「購買・仕入調達への助言・・・企業の成功に向け見落とされている着眼点」

講演⑥「増大するアジアの古紙需要に如何に対応すべきか」

講演⑦「コンテナ輸送について・・・今後回復の方向へ向かうのか」

講演⑧「日本を取り巻く内外の古紙市場」・・・全原連 大久保需給委員長

- ・はじめに・・・日本の和紙の歴史と洋紙の生産
- ・全国製紙原料組合連合会とは
- ・古紙品質を高めるための2つの認定制度
- ・古紙の主要な回収・流通経路
- ・古紙標準品質規格・・・禁忌品基準
- ・古紙利用率の推移と目標値および輸出実績
- ・アピール・・・5年後に日本でこの会議を開催したい。

参加者全員による会議後の円卓パーティでは、中央の席が我々のために用意されただけでなく、冒頭で我々を紹介して頂き感激しました。そして美味しい料理とワインを堪能させて頂きました。

青年部部長挨拶



青年部部長

坂内 大介

青年部の今期の活動内容は前期とほぼ変わらないと思います。

前年度に引き続き、他組合青年部との交流会・組合主催ゴルフの運営・青年部懇親会、研修会等を実施していきます。これらの活動を通し、最も重要と考えるのは参加人数が増えるということだと思います。ここのところの不景気に伴い古紙業界も取り扱い量が減り、組合活動への参加も以前より減ってきているようです。ましてや青年部への参加は時間のやりくり等大変でしょう。しかし幸運なことに、ここのところ青年部員は増えてきています。各活動に全員が出るというのは難しいですが、よく都合をつけて参加しています。これからも部員間の交流・意見交換・情報交換などを主体に活動していきます。

第24回 古紙関係協議会

平成22年7月28日(水) pm4:00

製本工組組合会議室にて開催

出席者：製本工組 15名 東京協組 11名

毎年恒例となっている東京都製本工業組合（製本組合）と東京都製紙原料協同組合（製紙協組）による第24回古紙関係協議会が板橋区大和町の製本会館で開催された。

司会進行は、常川副理事長が務めた。

星野理事長の挨拶

製本業界も厳しい環境にありますが、製紙原料の皆様と忌憚りの無い話ができればありがたいと思います。よろしくお願いします。

近藤理事長の挨拶

先般開催された製本組合創立110周年の際、星野理事長は紙の本には電子書籍にはない感性があり、新たな需要に取り組むとあいさつされました。われわれ古紙業界も今まで以上に合理的な古紙回収やサービスの向上に努めねばなりません。最近の市況と共に数量的な推移や品質問題等をご報告させていただきます。貴業界においても、新技術等今までにない古紙の発生等の可能性がありましたら、ぜひ情報を教えていただければと存じます。



古紙業界の動向（東京協組）

〔古紙全般に関する現況〕

全般的な古紙の市況と製本業者から発生する産業古紙に分けて説明いたします。古紙全般の市況については、国内外とも大きな変化はありません。古紙の発生量は新聞、雑誌、段ボールが全体の8割を占めますので、この3つをメインに話を進めたい。古紙の一つの指標として輸出があげられます。7月の輸出単価は、新聞16.5円、雑誌13.5円、段ボール16円で、これは正直、国内価格より、若干輸出の方が高い状態です。8月

は急激な円高に向かっているので、輸出単価は下がると思われます。

ご存じのとおり製紙メーカーも景気が悪くて、古紙の購入は15%マイナスとなっております。比較的低グレードの白板、段ボールメーカーは洋紙メーカーよりは高い操業水準にありますが、それでも95%の水準です。何とか古紙単価を上向いて欲しいのが願望ですが、景気の動向が反映されている状態です。

【製本の裁落関係】

特更と家庭紙メーカーが私どもの主な販売先になるのですが、最近では、用紙メーカーも裁落物を積極的に購入しています。特更メーカーも雑誌の発行が非常に弱いということで、紙が売れません。売れないから古紙の購入も当然少なくなるという形になるわけですが、比較的特更紙は、紙のリサイクルが早く、古紙が余るときも、足りなくなる時も比較的定準化するというのか、需給のバランスがいいので、なかなかこの場で強気なことが言えない価格帯になってしまっている状況が続いています。なお、用紙メーカーも徐々に購入しているので、バランスが取れているのではないかと思います。

一方家庭紙、いわゆるトイレトペーパーですが、こちらは特更紙と全く性質が違い、余るときはとことん余り、足りなくなるととことん足りなくなるという特殊な性格がありまして、非常にバランスの取りづらい原料になります。トイレトペーパーは、秋から冬が需要期になるのですが、今は比較的需期に向けてバランスが取れているのですが、秋に向けて発生が回復しないと、需期に生産ができるのかという話も聞こえてくるので、私たちもお客様に還元できるように、組合としても一致団結してなんかいい機運をこれから作っていこうと、努力しています。

家庭紙の原料は、以前は印刷・製本業者から出る原料が主流でしたが、ここ10年ぐらいオフィスから回収されるミックス古紙（コピー用紙、封筒とかいろいろな紙が混ざった紙）を使う製紙メーカーが多くなってきました。製紙メーカーの技術進展によって使えるようになってきましたが、かなりの量が発生しているということです。全般的に古紙の発生減と輸出により、産業古紙の需給は比較的に締まった状態で進んでいます。

【古紙再生促進センターの資料について】

1990年の古紙回収率は49.7%、それが2009年には79.7%になり、ここ20年間で非常に回収率が上がっています。また、紙、板紙の出荷は、2000年がピークで、3172万トン、消費も3175万トンでこれもピークで、その後はほとんど横ばいです。古紙の回収量は2007年がピークで2332万トンでした。消費のピークは2000年ですが、回収率が上がったことにより回収量も増え、2007年がピークとなったわけです。

しかし、2009年は大変落ち込みました。回収率が前年に比べて4.6%も上がったにもかかわらず、もともとの母数（紙、板紙の消費量）が減り、古紙の回収量減っているということは、マーケットがだんだん小さくなり始めたということです。

次に回収した古紙の使用量の推移ですが、1990年から10年間は回収量と消費量のバランスが取れていました。ところが、1999年から行政回収が始まりまして回収量が増えて、回収量と消費量の乖離が出てきたということです。2000年の古紙の暴落の際には、国内の過剰分は、赤字で輸出してなんか収まりました。2002年からは中国への輸出が増え、国際マーケットと完全にリンクし、商売としての輸出ができるようになりました。

2. 製本業界の現況について（製本工組）

【書籍について】

売れ筋の製本を行っている製本所は非常に忙しく、そうでないところは、仕事量が少ない。ご承知のように昨年「1Q84」がかなり売れて、ある数社の製本所が忙しく、あとは非常に暇だっています。並製は発行点数が増えたということで、横ばいか、少し上向きという状況です。それから今年は「電子書籍元年」ということで、当組合でも2回電子書籍に関するセミナーを開催しましたが、お話を聞いてみると、先々どうなるのかわからないのが、現状です。これから5年、10年先だかわかりませんが、小中学校に電子黒板が普及し始めると、教科書は大変なことになってくるし、裁落も非常に少なくなってくると考えられます。

大手の印刷会社も電子書籍に力を入れており、製本会社も少しずつホディーブローがきいてくるのではないかと思います。

【製本業界について】

いままで製本業界は不況に強いといわれた業界でしたが、今は非常にきびしい。組合員数も激減しており、出版社系の製本会社の廃業も出ております。ライン数を減らすということも数社から聞いておりますし、一番裁落を出す雑誌系の会社が縮小されて、古紙の量はこの先、かなり少なくなるだろうと思います。

日本経済も小さくなれば、私ども製本業者も小さくなる。そうなれば、将来、昔のように逆有償になるのではないかと、大変心配しております。いまは本業で利益を出すことが厳しいので、少しでも古紙業者さんから頂戴するお金ありがたい。ですから逆有償にならずに共存共栄していけるようお互い考えていきたいと思っております。

「製本業の環境問題について」

いま、ものづくりでリサイクルが注目を浴びています。われわれでもグリーン購入法が入りまして、役所ではコピー用紙は再生紙でないものは使っちゃいけないということになっております。おのずと製紙メーカーも再生紙の割合を上げていくので、これからは古紙の使用量が上がるのではないかと少しは期待しております。

それと一つお願いがあります。日本印刷産業連合会では、グリーンプリンティング認定制度があり、その認定作業の中で、古紙回収業者を指定して、委託契約を結び、製紙メーカーまで行くフローチャートを作り、扱い量まできちっと出しなさいということですが、小さく業者ですとなかなか書いてはくれない、仕方がないから別の業者を入れることになる。そのようなことがないように組合でお話いただければ幸いです。

質疑応答

製本組合 Q

7月22日の日経新聞に用紙が10ヶ月ぶりに下落という記事が出ていました。古紙の価格について一番影響のある国はどこでしょうか。

製紙協組 A

一番気になるのは、中国の動きですね。聞いた話によると中国は計画性もなくして作る時は無我夢中で作る。要らなくなったら、まったく作らないといった極端なところがあるんで。日本では機械を止めて生産調整したり、計画的にやっている。

製本組合 Q

これから先に方向性というのか、今後逆有償なるのが一番困る。

製紙協組 A

逆有償になるということは、われわれも相当キツイ状態をお願いするということですから。それは

われわれにとっても絶対想像したくない世界ですね。

やはり過去には逆有償の時代がありましたけど、その時の販売さきは、国内メーカーしかなかった。今は海外に販路が開け、中国を中心として東南アジアなどに販路を探しながら、国内の需要がなくても販売できる形を作っています。

製本組合 Q

インドはどうですか。

製紙協組 A

日本古紙のマーケットからすれば、インドは距離も遠く対象外です。それと輸入紙が昔と比べてかなり入ってくるようになりましたが、輸入紙がたくさん入ってきたから製品価格が下がった見方は、少し疑問に残る部分があります。リーマン・ショック前に製紙メーカーは相当大型の設備投資をしました。そしてリーマン・ショック後は、その新規設備を除いても2割減です。ということで正直、製紙メーカーは3割設備過剰になっている。当然、余剰設備であれば価格は下がるだろうと思いますが、製紙メーカーは、工場の稼働を半分にして需給のバランスが崩れるのを防ぎ、価格を維持したんです。その3割近くの稼働損を原料の古紙、重油の下がった分で穴埋めしたわけです。

グリーンプリンティング認定について

広報部記

去る7月28日に開催された製本工組との第24回古紙関係協議会の席上で、先方からグリー

ンプリンティング認定(GP認定)の話が出ました。

先方のお話を伺いますと我々古紙業者にも関係のある話でしたので、取引先から話があった時に慌てないで対応できるよう、今回簡単にGP認定について説明いたします。

GP認定とは言葉からも想像できるように、「環境に易しい印刷」を推進するため、もともと印刷業界が取り組んでいた活動です。その活動が各印刷所でどれだけ成果をあげているか客観的に位置づけるためGP認定と言う制度が導入されました。グリーンプリンティング工場・認定審査申請書と言う様式があり、その様式に則りあらゆる方面から「環境に易しい印刷」を実行しているかチェックしています。

GP認定のスタートは印刷業界ですが、この活動が取引先である製本所に波及し、製本業界も同様の活動を開始しました。従って同様の認定審査申請書が使用され、その様式に則りあらゆる方面から「環境に易しい製本」を実行しているかチェックされています。

さて古紙業界との関係ですが、チェック項目の中に製本加工の過程で発生する古紙を、どのようにリサイクルしているかチェックする項目があります。まず取引業者である事を証明する古紙取引契約書を提出します。続いて古紙業者へ渡した古紙の種類・数量を月別実績として報告する必要があります。古紙を再資源化したことを証明する古紙回収証明書を製本業界の指定書式で3ヶ月ごとに報告します。

この認定制度は数年前から始まっていますので、組合員の中には既に経験している方もいらっしゃると思いますが、今後いつ協力依頼があるか分かりません。その時はきっちりと対応される事をお勧めします。

東京返本加工協同組合

第45回 通常総会開催

東京返本加工協同組合 事務局記

去る、2010年8月19日（木）東京ドームホテル5階『初音』の間において、東京返本加工協同組合 第45回（平成21年度）通常総会が開催されました。

ご来賓として、東京都製紙原料協同組合理事長 近藤 勝 様、出版共同流通株式会社 取締役副社長 高田 誠 様、税理士法人 西川会計 西川 豪康 様、東京都中小企業団体中央会 加地 豊 様にご出席を賜り、藤川理事司会のもと総会が開始されました。



審議に先立ち、工藤理事長より、扱い業量が減少するなか、組合としての課題・問題点を拾い上げ、改善実行し利益に結びつけたい旨の話がなされました。

続いて司会者より組合総数 23名、出席 19名、委任 4名であり、今総会が成立した旨の報告がなされ、議長選出では、会場より「司会者一任」の声がかかり、山中理事が議長に選出され、出席者の承認をもって審議にはいりました。

今総会の議案は第1号～10号議案が提案されており、21年度 事業報告、決算報告、剰余金

処分案、22年度 事業計画、定款改訂（改算式から加算式）、理事及び監事改選等々、各理事より上程され、各議案とも原案どおり全会一致にて可決されました。

事業報告では、売上3部門（売上高、加工料、受取手数料）784百万円（前年比88.0%）と2年連続での減収結果が報告され、近年雑誌発行形態で比率が高くなっている禁帯品剥離費用の料金改定、サーマルリサイクルとの併用による大幅な業務転換を図り、下請費を大幅に減少させ、トータルでの業績向上に繋げた旨の報告がされました。また、年末年始で実施した3号機 ベーラープレス機入替工事による修繕費の大幅削減（前年比68.7%）とその他経費抑制による販管費（前年比95.7%）削減が業績に大きく貢献した旨の報告がされました。

第8号議案「定款改訂（改算式から加算式）」では、施設・事業利用分量に応じた組合資本勘定の持分を確立させ、組合の大事な施設、財産を継承して行く旨の報告がなされました。

第9号議案、「理事及び監事改選」では、選考委員3名の推選により、理事7名、監事2名が、満場一致の承認をもって選出されました。

議案承認後、別室にて第一回理事会が行われ、理事互選により、理事長に工藤 裕樹（㈱工藤商店）、副理事長に齋藤 米蔵（㈱齋藤商店）、専務理事に 稲生 正俊（員外）が選出されました。

新役員を代表し工藤理事長より、就任のお礼と出版共同流通様ならびに取次各社様により一層の貢献を期する旨の言葉が述べられました。

ご来賓を代表し、出版共同流通株式会社 高田副社長 様より、祝意と出版共同流通様 事業方針と古紙化推進にあたって全面協力をしていく旨のお言葉のご挨拶を賜りました。

閉会の挨拶では、齋藤副理事長より、業量減少

のなか出版共同流通株式会社様、取次各社様へ更なるお力沿いを賜りたい旨のお願いと国民読書年ならびに電子書籍関連の話がなされ、最後に業量が減少するなか、古紙業界内での無謀な仕入過当競争を自粛しましょうとの提案がなされ通常総会は、無事終了となりました。

総会に引き続き、講師に 税理士法人 西川会計 西川 豪康 様による、『今なら間に合うグループ法人税への対応』をテーマに研修会が開催され、先生の講演に対し、多数の参加者から質問が飛びかう大変有意義な研修会となりました。

その後、場所を42階「シリウス」に移し、東京都製紙原料協同組合理事長 近藤 勝 様、出版共同流通株式会社 代表取締役社長 高見吉弘 様、をはじめ取次各社、出版共同流通㈱、協力会社、総勢60名のご出席を賜り、事務局 深澤部長の司会進行により総会懇親会が開催されました。

ご来賓として高見社長 様、近藤理事長 様より、ご祝辞を賜り、高田副社長の乾杯の音頭で開会し、新役員が皆様に紹介されました。

ご来賓挨拶 高見社長のお話しの中で、母校千葉県、成田高校が甲子園で快進撃を続けているお話があり、急遽 組合員社有志によるカンパが集められ、工藤理事長より手渡される一幕もありました。

TOM恒例のカラオケ大会では、7名の方々に日頃、鍛え上げた自慢の喉をご披露していただきました。

立食形式の会場には、いくつもの輪ができ、あちらこちらで笑い声が飛びかい、楽しい情報交換の場となり、富澤 監事の中締めの挨拶をもって19時15分終宴となりました。

お忙しい中、総会ならびに懇親会にご出席を賜りました皆様、誠にありがとうございました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

(新役員)

理 事 長	工藤 裕樹	(株)工藤商店	代表取締役社長
副理事長	齋藤 米蔵	(株)齋藤商店	代表取締役社長
専務理事	稲生 正俊		員外
理 事	山中 明德	(有)山中商店	代表取締役社長
理 事	上田 雄健	三弘紙業(株)	代表取締役会長
理 事	藤川 達郎	(株)藤川紙業	代表取締役社長
理 事	渡邊 繁光	東日紙商(株)	専務取締役
監 事	脇 克美	(株)脇商店	代表取締役社長
監 事	富沢 進一	(株)富 澤	代表取締役専務



直納部委員会及び納涼会

東京都製紙原料協同組合 事務局記

日時：8月26日(木)

午後5時～直納部委員会

午後5時30分～納涼会

場所：上野・東天紅「海燕亭」 参加者：31名



8月26日上野・東天紅「海燕亭」において直納部委員会と納涼会が開催されました。

午後5時30分から直納部委員会が始まり、各委員長から最近の古紙の市況説明がありました。

その後は、納涼会になり楽しい歓談のひと時が過ぎていきました。

清風会研修会及び納涼会

広報部副部長 脇 克美

日時：7月5日（月）

午後5時～研修会 午後6時～納涼会

場所：上野・東天紅 参加者：38名

去る7月5日（月）、上野「東天紅」において清風会の講演会及び懇親会（納涼会）が開催されました。夏と暮れの懇親会とゴルフコンペは会員同士のより一層の交流に大いに役立っていると見受けれます。

当日は恒例のとおり常任理事会を30分繰り上げて開催し、5時より研修講演会として、古紙輸出事情に大変造詣の深い、三ツ矢産商（株）代表取締役 杉山 正幸様に講師をお願い、お迎えして、ここ数年来の古紙輸出状況の変遷等について、詳細な資料を用意して頂き、参照しながらご説明を頂きました。



おかげさまで、曖昧模糊としていた私の知識も一本の筋道が通り、大いに整理ができました。杉山様、大変有難うございました。

その後、6時から場を納涼会場に移し、コンパ

ニオンも加わり和やかに宴が始まりました。そこは気心知れたる清風会のこと、あちこちで談論風発の輪が出来、大変賑やかなうちに、散会となりました。



組合主催ゴルフコンペ開催

青年部 高橋 宏明

平成22年8月1日（日）組合主催ゴルフコンペが、東筑波カントリー倶楽部にて開催されました。天候にも恵まれて、絶好のゴルフ日和となりました。ただ、ゴルフ日和と言うより猛暑の中でのプレイだったので、皆さん相当辛かったのではないかと思います。北コースから16名によるコンペがスタートしました。優勝は、増田悦宏さんでした。成績は次の通りです。

優 勝	増田悦宏	（株）増田商店
準優勝	工藤充彦	（株）起多邑
3 位	坂内大介	（有）宏栄紙業
5 位	清水朋子	（株）清 水
7 位	赤松源裕	（株）赤松商店
ブービー賞	新井正樹	（株）新井商店



青年部納涼会

幹事長 廣田 圭吾

炎暑たけなわの8月4日に有楽町のコカレストランにて、青年部納涼会が行われました。暑さに負けぬようにタイ料理を選び、辛さ旨さには定評の鍋料理「タイすき」がメインでした。

出席者は26名で、新しい顔ぶれと久しぶりの顔も混じり、賑やかな会となりました。参加者同士の和気あいあいとした雰囲気と、時折、聞こえてくる真剣な仕事話。改めて、青年部の良さとそれを束ねる責任を感じながらお酒に呑まれた夜でした。

支 部 便 り

文京支部 納涼会を開催

理事 人見 一男

平成22年8月9日(月)に文京支部では納涼会を池袋の居酒屋ダイニング「点」(ともの)で開催いたしました。

総勢22名の参加で、内訳は支部員19名、お客様に大同生命の吉川課長、斉藤さん、小川さんに出席いただきました。

少し狭い会場でしたが、その分一人一人が肩寄せあい近くで会話ができて大いに歓談できるのではないかと、幹事としては不安と期待の中、会は始まりました。

例年納涼会は婦人同伴もしくは各支部員複数での参加が恒例になっており、今回はいつも参加いただいている元支部長の樫原さん、清水さん、前支部長の大柴さんの奥様をはじめとして7名の女性陣が集まりました。料理にお酒に舌鼓を打ち、久しぶりの再会に会話も弾んでおりました。男性陣も日頃の憂さと暑さを吹き払うかのように飲み放題のお酒をガンガンおかわりして大いに盛り上がり、納涼会

の宴も盛況の中でお開きとなりました。

今回の幹事は東日紙商(株)人見でした。



荒川支部 納涼会開催

荒川支部支部長 久保田 貞行

平成22年8月21日(土)荒川支部では夏のレクレーションとして屋形船を貸切、家族従業員の納涼会を開催致しました。子供を含め60名以上、大勢の参加を頂きました。

今回は、葛西橋の晴海屋さんの船を利用して頂きましたが、当日は日暮里までマイクロバス3台で現地まで送迎して下さったので、皆様気軽に参加して頂けたようです。

当日は、天候にも恵まれ、船中では、大久保社長の乾杯の発声により宴会開始となり、揚げたての天ぷらを美味しく頂きながら、カラオケを楽しむ人、デッキでお台場の夜景を楽しむ人、参加していただいた方々には楽しんで頂けたようです。

宴会の後、藤井潔社長の締め挨拶にて散会となりました。また、帰りのバスの中でも日暮里に着くまで大盛り上がりでした。



城南支部 納涼会

城南支部 坂田 秀一郎

過日7月31日土曜日6時より 恒例の城南支部主催の納涼会を目黒・白金の八芳園で行いました。因みに八芳園は大久保彦左衛門の屋敷後とかで、約3萬坪の広大な敷地の中に、結婚式場やホテル及び離れのお座敷等が併設されている、都内屈指の庭園となっている。パティオは大きな池を中心に、松やつつじ、その他色々な季節の花が咲いて、すばらしい景観を見せてくれる魅力ある庭園となっている。又、槐（エンジュ）と云うマメ科の落葉高木。中国原産、幹の高さ約10m～15m、樹皮は淡黒褐色で割れ目がある。夏に黄白色の蝶形花をつけ、のち連珠状の莢を生ずる。めずらしい木もある。さてこの日は毎年両国の花火大会と重なり、花火が見られない事が残念である。又、7月の31日は子供達の夏休みであるが、子供も大きくなるにつれ、学校の諸行事やスポーツ等で、出席出来ない子供も多く見受けられる。それでも城南支部は19社中、9社、子供・幼児を含め、37名の参加が御座いました。6階の美しい「サクレ」の間で、和気藹々の中に、定刻を少し廻り、井出紙業・井出一之氏の司会で和やかにスタート。坂田智城南支部長の挨拶、続いて江墨支部長、松井隆宏副理事長に依る乾杯で盛大かついいムードで進行、又、大同生命の小川重子様も毎年お越し頂いております。本日はバイキング型式なのに、とても気持ちの良い雰囲気、参加者のマナーが随分向上しているなど感心致しました。今年の夏は例年になく猛暑日が続く厳しい状況下。冷たいビールや美味しい料理に舌鼓を打ち、ワイン、冷酒を喉へ、すごい満足感を味わう。会もタケナワ、毎年恒例のビンゴ大会が始まりました。ビンゴの主任は(株)中田のお店の方々です。すぐリーチの懸かる人、ぜんぜんダメな人など様々で、ビンゴになった人のうれしい顔がなんとも印象的でした。アットホームな楽しい時間もアッ

と云う間のお開き!! 当たり賞品を胸に、各自家路に着きました。納涼会はやっぱり浴衣姿!! 小さい子供達の浴衣姿がとても可愛いです。小生も久し振りに浴衣で参加致しました。今後も城南支部の恒例の納涼会がいつまでも続くことを祈念致しております。城南支部の役員の方々の労苦を思いながら、大変御苦勞様ですと御礼申し上げ、今後の城南支部の御発展を望んでやみません。これからもよろしく伝統を守って行って欲しいと思いました。



城北支部 納涼会

城北支部長 黒田 義孝

平成22年9月4日

浜松町にある屋形船竹内。100年以上読んで居る老舗船宿に近藤理事長を、お招きして納涼会を開催しました。

25名参加、6時30分位に乗船。丁度、薄暗くなり夜の納涼船は、風も少しでて昼間の暑さから逃れた気分で陸上のネオンも付き最高に盛り上がってきた。

黒田支部長、近藤理事長に挨拶を頂き、乾杯を乗附さんに頂いた後、宴会の始まりです。

夜景にみとれて、ビール、お酒、料理を満足して、頂けたのでは。お江戸の人が、タイムスリップして来たらビックリ、腰をぬかしそうな景色ばかり。「ウォーターフロント」と称する新しい都市の顔は、水の上から眺めるのが何よりとはいえ、ゆるやかな流れは、昔から変わらない粋な情緒いっぱい。

船の中では100万ドル以上の夜景、船から見る地上の夜景の中、支部員同士の情報交換しながら

ら友好を深めました。最後にビンゴを楽しみ、中締めを工藤商店島田さんに、皆さんのご健勝、商売繁盛を、願って三本締めでお開き、下船する。

今回の幹事は理事辻忠敏さん、理事竹内義人さんご苦労さまでした。



江墨支部 納涼会開催

江墨支部支部長 松井 隆宏

7月22日(木)吉野寿しに於いて納涼会を行いました。当日は、二世も多数参加され賑やかに行われました。

組合員の広場

永年勤続従業員表彰式に 参加して

(株)共益・商会 原田 周子

平成22年5月24日、第48回永年勤続従業員表彰式が開催され、本年度は28名の従業員の方達が表彰されました。

大勢の御来賓の方々のご祝辞を賜り、又近藤理事長より感謝状と記念品を贈呈して頂き心より感謝申し上げます。この様な大きな式典で、予想もしていなかった表彰者代表として謝辞を述べる大役を仰せ付かり、私にとって大変な驚きでした。

当日はきちっと上手にできるかどうか、とても不安でしたが無事何とか終える事ができ安堵致しました。

今回は15年勤続と言う事で表彰して頂いたのですが、共益商会に入社しての15年は、毎日が無我夢中でしたので、瞬く間に過ぎて行きました。

これも、ひとえに社長はじめ、会社の皆さんに支えられた御蔭で、ここまでやってこられた事に本当に感謝しております。有難うございます。

環境問題が取り沙汰されている現在、リサイクルの会社で働いてみなければわからなかった沢山の貴重な仕事に携わる事ができて、微力ながら社会に貢献出来ていると思うと、とても誇りに思います。

共益商会に勤める事が出来て本当に良かったと思っています。これからも古紙業界の末長い発展を願って、又永年勤続の更新が出来るように頑張っていきたいと思っています。

ゴルフの思い出

城南支部 坂田 秀一郎

清風会と云う名称が付く以前は「理事の会」と云う名称で、有志でプレーしていたようである。私も一度、坂田亮作氏に誘われて参加した。この時は名古屋栄一氏とラウンド致しました。ゴルフ場は宇都宮カントリークラブで昭和58年9月7日のことである。それから暫くして、理事の会から清風会と名称を変更、入会金は参萬円で高額であった。

清風会の第1回コンペは昔い話で恐縮だが、昭和59年6月14日(木)20名の参加、開催地は千葉県の総武カントリークラブ名門である。因みに清風会と云う政治結社みたいな名称の名付け親は、(株)富澤の会長・富澤一郎氏並びに長井紙業の会長・長井保氏である。清風会第1回コンペは雨の予報がはずれ、晴天となった。清風会はゴルフだけでなく、製紙会社の人の話を聞いたり、状況の説明、専門家の貴重なお話を伺う会でもある。第1回大会もプレー後に本州製紙(株)の阿部昇課長の御参加を頂いて、その時の古紙事情やアメリカの古紙事業について講演して頂いた。確か阿部昇氏が優勝し、(株)宏文社の乗附孝之

氏が準優勝。因みに彼（乗附氏）のスコアは、39・44 HC5 BGと思う。第1回参加者20名、主たる参加者、富澤氏、長井氏、庄司氏、杉澤氏、脇氏、坂田亮作氏であった。清風会は春秋二回木曜日と決定。二回の中、一回は旅行を兼ねることになっていた。又、コンペはワンハーフが常識であった。清風会は今日迄50回以上続いている誇り高き会である。

話は少々変わるけれど、何処の組合でも青年部員が活躍しなければ組合の発展はない。むしろ衰退してしまう。私も集荷の若手として、当時40才位。東京都製紙原料協同組合青年部主催第1回大会を昭和53年11月19日（日）37名の参加があり、盛大に栃木県の鹿沼国際カントリークラブで挙行。この時は当ゴルフ場が竣工したばかりで、水ハケが悪く、第2打もティの使用が認められ、ティの上にボールを置いて打った記憶がある。今このゴルフ場は南摩城カントリーと名称変更、すばらしいゴルフ場となっている。確か名古屋の岡地証券の所有だった。青年部主催の第1回大会は、優勝者沢村紙業さん、準優勝は近藤（一）氏となった。この時の参加者は現相談役の檜原邦明氏、鴨志田氏、森茂博氏、城南の西山実氏等で、檜原邦明氏のスコアは39・51だった。この時はペリア方式で、彼は優勝を逃した。青年部第2回大会 昭和54年10月14日（日）は、栃木県の真名子カントリークラブ、参加者は40名で優勝は沢村紙業さん、準優勝は庄司吉秋氏、第3回大会は昭和56年4月26日（日）静岡県の太陽カントリークラブで15組60人の参加があった。第4回大会は群馬県のサンコーカントリークラブ 昭和57年5月23日、参加者50名位か？参加者は起多邑紙業の会長、(株)庄司、山中紙業、梨本 榎本 山田氏等であった。青年部主催のコンペは現在まで盛大に続いている。昔の古い話であるが、組合ゴルフの一端を紹介しました。

♪ことわざミニ知識♪

「犬も歩けば棒にあたる」

物事を行う者は、時に禍にあう。また、やってみると思わぬ幸いにあうことのとえ。前者が本来の意味と思われるが、後の解釈が広く行われる。・・・広辞苑

「犬に棒」とくれば禍に遭うと考えるのが自然であろう。用もなく歩き回ると碌な事がない例えであった。しかし人間とは楽天的な動物のようで、長くこの諺が使われている内に、次第に、「なんとなく出歩いていけば、うまい話にありつく事がある」と言う希望的な意味を持つようになった。

支部スケジュール

千代田支部

支部会	10月	5日（火）	菜の花
支部会	11月	5日（金）	菜の花
支部会	12月	6日（月）	場所未定
忘年会	12月	6日（月）	〃

中央支部

支部会	10月22日（金）	大門酒家
支部会	11月19日（金）	きくち

文京支部

支部会	10月	8日（金）	場所未定
支部会	11月	8日（月）	大塚すし常本店
忘年会	12月	8日（火）	場所未定

台東支部

忘年会	11月	*日にち・場所未定
-----	-----	-----------

荒川支部

支部会	11月	*日にち未定・四丁目会館
忘年会	12月10日（金）	四丁目会館

足立支部

支部会	10月	2日（土）	西新井
忘年会	12月	4日（土）	北千住

山手支部

支部会	10月18日（土）	鮎やなぎ
-----	-----------	------

- 支部会 11月19日(金) 鮭やなぎ
忘年会 12月20日(土) 鮭やなぎ
- 城南支部
支部会 10月26日(火) 大崎第2会議室
忘年会 *日にち・場所未定
- 江墨支部
支部会 10月20日(水) 吉野すし
支部会 11月24日(水) 吉野すし
忘年会 12月24日(金) 吉野すし
- 城北支部
支部会 10月 8日(金) 東明大飯店
支部会 11月12日(金) 東明大飯店

◎静岡県紙業協会家庭紙部会 との懇談会

平成22年10月19日(火)

懇談会:午後5時～ 懇親会:午後6時～

場 所:上野・精養軒

通常は富士で開催されている会議が、今回は東京で開催されます。普段、遠くてなかなか参加できない方はこの機会に是非、ご参加ください。

◎直納部主催

海外メーカー工場視察研修会

訪問先・・・中 国(詳細は後日連絡)

期 間・・・

平成22年11月20日(土)～23日(火)

直納部主催ですが、組合員どなたでも参加できます。奮ってご参加ください。

ご案内後、締め切り日までに事務局宛てにお申し込みください。

お 知 息 せ

10月会議・催事予定

[10月予定]

- 10月 4日(月) 共販輸出検討委員会(pm2:00～)
" 常任理事会(pm2:30)

理事会(pm4:00～)

組合会議室

10月14日(木) 清風会ゴルフコンペ

茨城県「宍戸ヒルズ」

10月15日(金) 直納部委員会(pm3:30～)

" 集直合同委員会(pm4:30)

組合会議室

10月19日(火) 静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会

事前会議(pm4:15～)

懇談会(pm5:00～)

懇親会(pm6:00～)

上野・精養軒

10月25日(月) 古紙センター業務委員会

(pm1:30～)

" 全原連役員会(pm2:45)

古紙センター会議室

[古紙価格]

[東資協の古紙4品の標準売値]

平成22年8月9日現在

新 聞 8～10円(横ばい)

雑 誌 7～8円(横ばい)

段ボール 8～9円(横ばい)

[古紙品質調査事業] 平成22年7月～9月価格

[新聞 古紙] 16,000円/トン

[段ボール 古紙] 16,000円/トン

会 議 概 要 [7月]

7月度定例理事会

[平成22年7月5日(月)] pm4:00～

出席理事 26名(於) 組合会議室

近藤理事長挨拶

先月に静岡県紙業協会家庭支部会との会合があり、パルプが高騰しているが家庭紙製品の価格修正は難しいとの話がありました。この会議は年3回富士で行っていますが、10月は東京で開催す

る事になりました。(10月19日開催)この機会に普段参加できない集荷部の方には是非、多くの参加を願いたいと思います。今月は製本工組との古紙関係協議会があり、9月には東資協との懇談会もあり、隣の業界での出来事等の情報を得るもできますので出来るだけ多くの皆様に参加していただけますようご協力をお願い致します。

[各部報告]

[直納部]

7月度の共販輸出は3社による入札となり(株)松本光春商店が、前月より50銭の安値で落札した。輸出先は中国。全般的な市況は、6月下旬より輸出が回復してきており3品とも国内価格を上回る価格で推移している。先月行なわれた静岡県紙業協会家庭支部会の懇談会では、製品価格の価格修正がまだ出来ていない状況であった。メーカーは製品在庫を抱えており、古紙在庫も間に合っている状況であった。ただほとんどのメーカーが、9月に入ってから古紙需要について不安を持っている。

[品目別市況]

[家庭紙] 家庭紙の製品価格修正はうまくいかなかったようである。製品在庫の動きが悪い。ティツシュがまったく良くなく輸入のティツシュも入ってきているが全体のシェアは少ない。ティツシュは下落のみである。家庭紙メーカーは、ペーパータオルは12～15%。生命線はトイレトペーパーで85%を中小の家庭紙メーカーがしめている。6月から燃料が上がってきておりパルプも高騰している。もうしばらく様子を見ていくべきではないか。9月にはタイト感が強くなるのではないかと思われる。

[段ボール] 段ボールは前倒しで生産が上がっている。古紙の輸出も持ち直してきている。在庫も引き締まりメーカーからの発注もきている。今現在の上海の状況が見通しが立てにくく不透明である。

[新聞・雑誌] 発生が低調。特に雑誌の落ち込みが激しく今後、仕入競争となっていくのか。先行

き輸出は不透明感が漂う。新聞は流れが良くなってきている。国内は顕著に推移するのではないか。

[台紙] 発生が少ない。仕事がなく廃業する所が増えてきている。単価は変わらない。

[返本] 発生が悪い。毎月、対前年比で10%ほど落ち込んでいる。回復をする見込みがない。今後さらに回収雑誌が落ちてくるのが予想される。

[オフィス古紙] 発生が少ない。シュレッター類が少なく紙ゴミに混入しているケースが多いのではないかとと思われる。

[集荷部]

発生は落ちている。静岡県紙業協会家庭紙部会では価格面での話題はなかった。

[広報部]

広報5月号(総会号)の中で一部誤りがあり、先日、お詫びと訂正分を送付した。7月号はメインページに各業務部長の年間方針を掲載予定である。又、静岡県紙業協会家庭紙部会の懇談会の内容も掲載する。その他は各支部のスケジュールを掲載。

[青年部]

延期になっていた組合ゴルフコンペについては8月1日開催で準備中である。奮って参加してほしい。

[近代化推進事業委員会]

経営革新委員会：

古紙商品化適格事業所は最終的に44社49事業所が更新をした。

審議事項—古紙商品化適格事業所の更新(6月末分)の承認の件 11社・11事業所 — 可決
IT委員会：9月9日のIT委員会の後、10日～12日まで上海でIT委員会を行う。

渉外広報委員会：国際古紙会議の報告書を作成中。

古紙センター関東地区委員会

[平成22年7月23日(金)] pm4:30～
於)古紙センター会議室

[需要動向] 2010/7月 単位トン、

()は対前年同月比、在庫の()は在庫率

〔関東商組 32 社実績〕

〔新聞〕	仕入	72,812 (95.3%)
	出荷	72,435 (94.2%)
	在庫	9,471 (13.1%)
〔雑誌〕	仕入	49,790 (89.6%)
	出荷	50,491 (90.5%)
	在庫	9,258 (18.3%)
〔段ボール〕	仕入	125,070 (92.8%)
	出荷	123,074 (91.6%)
	在庫	14,064 (11.4%)

〔関東・静岡実績〕

〔新聞〕	入荷	242,980 (99.1%)
	消費	226,946 (100.2%)
	在庫	172,043 (75.8%)
〔雑誌〕	入荷	118,347 (100.7%)
	消費	118,251 (99.3%)
	在庫	55,584 (47.0%)
〔段ボール〕	入荷	303,205 (107.7%)
	消費	294,054 (100.7%)
	在庫	98,842 (33.6%)

〔業者側コメント〕**〔新聞・雑誌〕**

新聞は、メーカーへの入荷は 100%を越えている。本文は、6月は前月比 111%、前年比 101%と減り方が少なくなってきている。

雑誌は、売上が 2%前年より減っている。返品率は今年の 1月～5月で 1%ほど改善されてきている。

〔段ボール〕

ダンボールは、この暑さで飲料水関係が売れているため入荷より出荷の方が多い状況。輸出も多く在庫がきわめて少ない状況になっている。メーカーの消費が上がってきている。

〔メーカー側コメント〕

新聞は、発生が低調。5月から比べると 6月の在庫は上がった。

段ボールは暑さの影響で飲料関係の出荷が多い。原料の 6月、7月の入荷は良くない。在庫計画に影響はなかったが在庫レベル低い状況である。

古紙センター業務委員会

〔平成 22 年 7 月 26 日 (月)〕 pm1:30 ～
於) 古紙センター会議室

- 〔1〕 平成 22 年度事業の実施状況について
- 1) 古紙回収推進事業
 - 2) 古紙利用率向上促進対策調査事業
 - 3) 古紙利用新規用途普及促進対策事業
 - 4) オフィス発生古紙リサイクル普及促進対策調査事業
 - 5) 紙リサイクルセミナー
 - 6) 捺染紙混入撲滅対策チームの活動
- 〔2〕 集団回収実施団体への感謝状交付 (近畿地区委員会推薦) について
- 〔3〕 古紙の需要・市況動向について
- * ページ数の関係で割愛させていただきます。

全原連 第 3 回役員会

〔平成 22 年 7 月 26 日 (月)〕 pm1:30 ～
於) センター会議室

理事・監事 64 名 : 出席 64 名 (内、委任出席 36 名)
欠席 0 名

(1) 古紙再生促進センター 関係**● 業務委員会 (7 月 26 日開催)****◎ 平成 22 年度事業の実施状況について****① 古紙回収推進事業の計画**

(支出概算金額 80,325,800 円)

- ・ 特別委員会所管事業 20,000,000 円
- ・ 各地区実行委員会事業 60,325,800 円

内訳:

- 北海道地区 3,000,000 円、
- 東北地区 3,000,000 円、
- 関東地区 10,000,000 円、
- 静岡地区 10,000,000 円、
- 中部地区 15,225,800 円、
- 近畿地区 5,000,000 円
- 中四国地区 5,600,000 円、

九州地区 8,500,000円

- ②古紙利用率向上促進対策調査事業計画(案)
- ・森林資源の持続的利用への影響、廃棄物埋立の削減への影響、エネルギーや温室効果ガスへの影響を重点に調査し報告書を作成する。
- ③古紙利用新規用途普及促進対策等事業実施計画(案)
- ・製紙原料以外への古紙利用の状況調査及びRPF(固形燃料)の分野調査。
 - ・古紙ハンドブック2010の作成。
- ④オフィス発生古紙リサイクル普及促進対策調査事業計画書(案)
- ・小規模事業者排出のオフィス古紙のリサイクル調査及びオフィス発生古紙回収とリサイクルの事例集報告書作成。
- ⑤紙リサイクルセミナー開催計画
- ・開催日時:
平成22年9月30日(木) 13:30～15:55
 - ・開催場所:東京商工会議所国際会議場
- ⑥捺染紙混入撲滅対策チームの活動について
- ・本年2月対策チーム設置し、2回の会議で使用済み昇華転写紙による被害の現状、関連業界の現状、対策の方法等を検討。昇華転写業界についての知識を共有したうえで検討を進める必要があるという認識からワーキンググループ(WG)を組織し、2回のWG会議を開催し、報告書作成。WG報告書に基づき8月3日に第3回の対策チーム会議を開催。
- ◎集団回収実施団体への感謝状の交付について
- ・推薦地区:近畿地区委員会、
推薦団体:3団体
- ◎今後の日程について
- 平成22年9月29日(水) 14:00～15:00
第5回業務委員会(センター会議室)
- 平成22年10月25日(月) 13:30～14:30
第6回業務委員会(センター会議室)
- 平成22年11月25日(月) 13:30～14:30
第7回業務委員会(センター会議室)

(2) 経済産業省 関係

- ◎古紙市場安定化検討会開催について
- *紙板紙市場及び古紙市場の現状認識の上で我が国の優れた紙リサイクルシステムを維持するとともに国内及びアジア市場における古紙需給を安定させ、製紙業界及び古紙業界がともに持続的な安定経営を行うために必要ことは何かについて日本製紙連合会、古紙再生促進センター、全原連で検討する。
 - *具体的な検討内容について
 - ①国内古紙需給のタイト化局面での対応
 - ②国内古紙需給の軟化局面での対応
 - ・古紙需給調整対策及び製紙業界の経営安定策
 - ・古紙需給調整対策及び古紙業界の経営安定策
 - *検討会メンバー案(14～15名位)
 - ・製紙業界5名、古紙業界(直納問屋)4名、中立団体(古紙センター1名・自治体2～3名)、その他(回収業者1名・消費者団体1名)、学識経験者1名

(3) 全原連 関係

- ◎審議事項(役員会上程、承認事項)
- ①「古紙商品化適格事業所」・「古紙リサイクルアドバイザー」申請認定について
 - ・古紙商品化適格事業所:6月15日(3社、3事業所)累計(413社827事業所)
 - ・リサイクルアドバイザー:6月15日(4社、7名)累計(438社、2,041名)
 - ②古紙市場安定化検討会委員の人選について
 - ・栗原正雄全原連理事長、深田全原連副理事長、大久保信隆全原連需給委員会委員長、瀧本義継全原連経営革新委員会委員長計4名
 - ③日本古紙品質認定(J-BRAND)規則案及び運営細則案について
 - *規則案及び運営細則案について皆様からの指

摘により規則案は文書を確認し細かい文言の修正を行う。運営細則は今後運営を行う上で修正をしていく。

＊ J-BRAND 証明シール案について

- ・皆様の意見を集約して、再度検討する（メーカーの意向を確認）。

＊ 日本古紙品質認定制度運用スケジュールについて

- ・ 試行運用期間：平成 23 年 1 月～ 3 月、試行運用組合：関東商組
- ・ 試行運用に係る：古紙再生促進センター各地区委員会打ち合わせ
- ・ 運用開始予定：平成 23 年 4 月以降

(4) 各委員会報告

● 経営革新委員会（7 月 14 日開催）

＊ 古紙リサイクルアドバイザー用サブテキスト(案)

- ・ 「紙のリサイクル」（紙という字はなぜ糸へんなのか）30 ページ作成
- ・ 「品質管理手順書」改訂版の作成

● 需給委員会

- ・ 海外視察調査：第 13 回世界古紙会議（4 月 28 日～ 29 日）参加
（ドイツ / デュッセルドルフ）
報告書作成（9 月理事会配布予定）
- ・ 需給予測（2010 下期）9 月開催予定

● IT 推進委員会

- ・ 9 月 9 日（木）委員会開催
- ・ 研修会：9 月 10 日（金）～ 12 日（日）上海万博

● 渉外広報委員会

- ・ 優良性評価 2 事業の広報宣伝（経営革新委員会合同）実施予定（9 月以降）

編集後記

広報部部长 清水 弘允

いい加減、聞きあきた言葉だが、今年の夏は暑い。新聞によれば明治 17 年に現在の天気予報制度が始まって以来、今年の暑さは一番だそうだ。それも天気予報の始まる前は暑さの統計がないのだから、実際には過去何百年の中で一番の暑さかもしれない。

そう考えると、古紙回収を現場で支えてくれる皆さんには、その苦勞に頭が下がる思いである。

さて皆さんの家庭でも夏休みが終わり、子供達と作った田舎の思い出、海の思い出、山の思い出など多くの思い出を残して、普通の生活に戻ったのではないか。

TV を観ていると日本だけでなくどこの国も元気がない。中国経済が腰砕けにならないよう祈るばかりである。政局の話もうんざりで、早く裏付けのある予算を組んで景気対策に専念してほしい。

暑くていい事と言えばビールや飲料水がよく飲まれる事から、段ボールの生産は順調のようである。印刷紙の消費がもう少し戻ればなお良いけれど。

そんな中、我々の組合も夏休みを終え秋に向けて動き始めた。今年もあと 4 ヶ月弱となり、支部会、東資協との懇談会、静岡県紙業協会との意見交換会、海外メーカー視察などの活動が再開される。理事会では忘年会、新年会の話も出ていた。

日常的な事と非日常的な事を織り交ぜながら、確実に時間は過ぎて行く。組合員の皆さんは自分だけの「色の付いていない時間」に、どんな色をつけるのだろう。波瀾万丈の極彩色も怖いけれど、なにも色が付いてないのも頂けない。